「い」で始まる語彙辞典（メジャー）

小説・ラノベの文章表現を
豊かにしよう

はじめに

こちらの語彙辞典は、
小説投稿サイト『小説家になろう』で公開している
【小説・ラノベの書き方講座｜ビジネス思考の創作論】の中の
『小説・ラノベの文章表現を豊かにする 50 音別の語彙辞典』を
ＰＤＦレポート形式に整理したものです。

多くの語を記憶することで、
あなたの文章表現力は
今よりも豊かなものとなります。

『１日５語ずつ』などのように目標を決めて、
今の自分が知らない語を暗記していきましょう。

なお、こちらの語彙辞典は
ノマドクリエイターのショウヘイが
趣味の一環で制作したものです。

商用で販売するつもりは一切ないので、
あなたの友人・知人の作家仲間に
自由に配布してくださって構いません。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

目次

はじめに 2

「い」で始まる語彙辞典（メジャー） 4

おわりに 71

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

「い」で始まる語彙辞典（メジャー）

い - あい【遺愛】
死んだ人が、生前に愛用していたもの。「亡父―の万年筆」

いあい - ごし【居合腰】
居合をするときの、片ひざを立てて腰を浮かした姿勢。

い - あか・す【居明かす】
［動サ四］
寝ないで夜を明かす。「敵を警戒して、居間で―・す」

帷幄（いあく）に参・ずる
軍事上の機密の相談に参加する。秘密の話し合いに加わる。

い - あ・てる【射当てる／射中てる】
［動タ下一］いあ・つ［タ下二］
① 矢を射て命中させる。「的に―・てる」
② ねらったものを自分のものにする。「金賞をまんまと―・てる」

い - あわ・せる【居合（わ）せる】
［動サ下一］ゐあは・す［サ下二］
ちょうどその場にいる。「たまたま事故現場に―・せる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - あん【慰安】
［名］（スル）
心をなぐさめ、労をねぎらうこと。また、そのような事柄。「従業員を―する」「―旅行」

い - い【依違】
［名］（スル）
あいまいな態度をとること。「政府―して答えず」

い - い【依依】
［ト・タル］［形動タリ］
思い慕うさま。離れがたいさま。「アリスに別れ愁心―として鬱情を漏らす」

い - い【委蛇】
［ト・タル］［形動タリ］
曲がりくねって長々と続くさま。いだ。「―として続く坂道」

い - い【易易】
［ト・タル］［形動タリ］
何の困難もなくたやすいさま。「そんな仕事は―たるものだ」

い - い【唯唯】
［ト・タル］［形動タリ］
他の意見に従って少しも逆らわないさま。「―として従う」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いいだくだく【唯唯諾諾】
［ト・タル］［形動タリ］
少しも逆らわずに他人の言いなりになるさま。「―として命令に服している」

いい - あわ・せる【言（い）合（わ）せる】
［動サ下一］いひあは・す［サ下二］
前もって話し合う。話し合って取り決める。申し合わせる。「―・せた場所で待つ」

いい - い・れる【言（い）入れる】
［動ラ下一］いひい・る［ラ下二］
外から屋敷・部屋の中に向かって言う。取り次ぎを介して内へ伝える。

言(い)い得て妙
巧みに言い表しているさま。「バブル経済とは―だ」

いい - お・く【言（い）置く】
［動カ五（四）］
あとに残る人に話しておく。言い残す。「家人に―・いて出かける」

いい - おく・る【言（い）送る】
［動ラ五（四）］
① 使いの者をやったり、手紙に書いたりして、言葉を伝える。「帰国を急ぐよう―・る」
② 順々に言葉を伝える。「中止の旨をクラス全員に―・る」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いい - おと・す【言（い）落（と）す】
［動サ五（四）］
① 言うべきことを言い忘れる。言いもらす。「大事な用件を―・す」
② けなして言う。悪く言う。

いい - かぶ・せる【言い被せる】
［動サ下一］いひかぶ・す［サ下二］
罪や責任を他人に負わせようと、盛んに言い立てる。

いい - かわ・す【言（い）交（わ）す】
［動サ五（四）］
① 互いに言う。言葉を掛け合う。「あいさつを―・す」
② 口約束をする。特に、結婚を約束する。「―・した仲」

いい - がい【言い甲斐】
言葉に出して言うだけの価値。「素直に聞き入れるので―がある」

異域(いいき)の鬼(おに)となる
《李陵「答蘇武書」から》
外国で死ぬ。異郷の鬼となる。

いい - くさ・す【言い腐す】
［動サ五（四）］
悪く言う。けなす。「人の作品をあれこれと―・す」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いい - くら・す【言（い）暮（ら）す】
［動サ五（四）］
そのことだけを言って日を過ごす。「暑い暑いと―・しているうちに」「昔のことばかり―・す」

いい - くる・める【言い包める】
［動マ下一］いひくる・む［マ下二］
言葉巧みに相手を信用させてだます。口先でまるめこむ。「まんまと―・められた」「黒を白と―・める」

いい - け・す【言（い）消す】
［動サ五（四）］
① 他人の言葉を否定する。「私の言うのを自暴(やけ)に―・そうとした」
② 前言を取り消す。「失言をあわてて―・す」

いい - こしら・える【言い拵える】
［動ア下一］いひこしら・ふ［ハ下二］
その場のがれの口実を使う。うまく言いつくろう。「言葉巧みに―・えて責任を逃れる」

いい - こ・める【言い籠める】
［動マ下一］いひこ・む［マ下二］
弁舌で相手の抗弁の口を封じる。議論してやりこめる。「―・められて引き下がる」

いい - さ・す【言い止す】
［動サ五（四）］
途中まで話してやめる。言いかけてやめる。「事情を―・して涙ぐむ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いい - しぶ・る【言（い）渋る】
［動ラ五（四）］
ためらってなかなか言わない。言いにくそうにする。「返事を―・る」

いい - しら・ける【言（い）白ける】
［動カ下一］いひしら・く［カ下二］
発言がその場にそぐわなくて気まずくなる。「強弁すればするほど、かえって―・けてしまう」

いい - しれ◦ない【言（い）知れない】
［連語］
何と言っていいかわからない。言葉で言い表せない。言い知れぬ。「―◦ない空しさをおぼえる」

いい - す・てる【言（い）捨てる】
［動タ下一］いひす・つ［タ下二］
言いたいことをその場限りに言う。言いっぱなしにする。「苦情を―・ててその店を出る」

いい - そ・える【言（い）添える】
［動ア下一］いひそ・ふ［ハ下二］
言葉を付け加える。言い足す。「お礼の言葉を―・える」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いい - そこな・う【言（い）損なう】
［動ワ五（ハ四）］
① 言いまちがえる。言葉をまちがえたり、不適当なことを言ったりする。「台詞(せりふ)を―・う」
② 発言のきっかけを失ったり、言うことを忘れたりして言わないでしまう。「時間切れで―・った」

いい - た・てる【言（い）立てる】
［動タ下一］いひた・つ［タ下二］
① 強く主張する。言い張る。「犯人はあいつだと―・てる」
② 一つ一つ数え上げて言う。列挙して述べる。「人の欠点を―・てる」
③ 評判を立てる。言いはやす。「世間があれこれと―・てる」

いい - ちら・す【言（い）散らす】
［動サ五（四）］
① うわさなどをあちらこちらで言う。言い触らす。「あることないこと―・して歩く」
② 勝手なことを言いまくる。言いたいほうだいを言う。「不平不満を―・す」

いい - つ・げる【言（い）告げる】
［動ガ下一］いひつ・ぐ［ガ下二］
言葉で知らせる。告げ口する。「殿下に―・る」

いい - つの・る【言（い）募る】
［動ラ五（四）］
調子に乗っていよいよ激しく言う。「興奮して声高に―・る」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いい - つらのかわ【好い面の皮】
［連語］
割に合わないことに出会ったときに、自嘲したり同情したりしていう語。とんだ恥さらし。いい迷惑。「いつも引き立て役にされて―だよ」

いい - な・す【言い做す】
［動サ五（四）］
① 事実とは違うことを事実らしく言う。「彼が犯人であるかのように―・す」「針を棒に―・す」
② 取りなして言う。取りはからって言う。「巧みに―・して仲直りさせる」

いい - ならわ・す【言（い）習わす】
［動サ五（四）］
世間で慣習として言う。「業界で―・してきた符丁」

いいなり - しだい【言（い）成り次第】
言うがままになること。いいなり。いいなりほうだい。「親の―にはならない」

いい - ぬ・ける【言（い）抜ける】
［動カ下一］いひぬ・く［カ下二］
言葉巧みにごまかして、責任などを逃れる。言い逃れる。「詰問をうまく―・ける」

いい - はな・つ【言（い）放つ】
［動タ五（四）］
自分の考えていることを遠慮なく言う。はっきりと言う。「聴衆にむかって―・つ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いい - ふく・める【言（い）含める】
［動マ下一］いひふく・む［マ下二］
① 納得がいくように説明する。言い聞かせる。「子供たちによく―・める」
② あらかじめ言って承知させる。「必ず来るように―・めておく」

いい - ふる・す【言（い）古す】
［動サ五（四）］
長い間言い続けて新しみがなくなる。「―・された話」

いい - まぎら・す【言（い）紛らす】
［動サ五（四）］
話題を転じてその場をごまかす。言い紛らわす。「―・してその場を切り抜ける」

いい - まわ・す【言（い）回す】
［動サ五（四）］
遠まわしに言う。「―・した表現で真意がつかみにくい」

好(い)い目(め)が◦出る
物事が都合のよい状態になる。

いい - やぶ・る【言（い）破る】
［動ラ五（四）］
議論で相手を屈服させる。言い負かす。「論敵を―・る」

言(い)う口の下から
言ったとたんに。言うとすぐに。「やめると―もうタバコに火をつけた」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

言(い)うだけ野暮(やぼ)
皆が知っていながら黙っていることを、口に出して言うのはばかげている。

い - うつ【医鬱】
鬱憤（うっぷん）を晴らすこと。「―排悶(はいもん)の効能」

言(い)うに言われ◦ない
① 言葉でうまく言い表せない。「夕焼けの―◦ない美しさ」
② 言いたくても言うことができない。「―◦ない事情がある」

言(い)うに事を欠いて
ほかに言い方があるだろうに。ほかにも話題があるだろうに。言うに事欠いて。「―本人の前であんな話をするなんて」

言(い)うは易(やす)く行(おこな)うは難(かた)し
《「塩鉄論」利議から》
口で言うのはたやすいけれども、それを実行することはむずかしい。

言(い)うべきにもあら◦ず
口に出して言うまでもない。「雪の降りたるは―◦ず」

言(い)うべくもあら◦ず
言葉では言い尽くせない。「―◦ぬ綾織物に絵をかきて」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

言(い)うもおろか
《「おろか」は、おろそか、不十分の意。後に「愚か」と意識された》
言うまでもない。言うのもばかげている。

い - えい【遺詠】
故人が詠んだ未発表の詩歌。「―を歌集にまとめる」

いえ - がまえ【家構え】
家のつくり方。多く、外観にいう。家作り。「どっしりとした―」

いえ - じゅうだい【家重代】
家の宝として代々伝えていること。また、そのもの。「―刀剣」

いえ - すじ【家筋】
一家の系統。家の血筋。家系。「芸術家の―」「由緒ある―」

いえ - つき【家付き】
① もとからその家にいること。また、その人。特に娘が生家にいて婿とりする場合にいう。「―の娘」
② ある物に家屋が付いていること。「―の別荘地」

いえ - のみ【家飲み】
［名］(スル)
バーや居酒屋などに行くのではなく、自宅に仲間などを招いて酒を飲むこと。家でする飲み会。自宅飲み。うちのみ。→外飲み

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

言(い)えば更(さら)なり
わざわざ新たに言う必要もないほどだ。もちろんである。言うも更なり。

いえ - やしき【家屋敷】
家とその敷地。「―を人手に渡す」

家(いえ)を外(そと)に◦する
外出しがちである。自分の家にいつかない。「―◦して遊んでばかりいる」

い - えん【以遠】
ある場所を基点として、それより遠い所。それから先。「東北本線は宇都宮―が不通」

いお - え【五百枝】
たくさんの枝。

いお - え【五百重】
いくえにも重なっていること。「白雲の―に隠り遠くとも夕(よひ)去らず見む妹があたりは」

い - おと・す【射落（と）す】
［動サ五（四）］
① 矢を射当てて落とす。「飛んでいる鳥を―・す」
② ねらっていた地位・人などを手に入れる。射止める。「社長の座を―・す」「彼の心を―・す」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - おん【遺恩】
故人の残した恩恵。故人から受けた恵みや情け。

い - かい【遺戒／遺誡】
子孫などのために残した訓戒。ゆいかい。「父の―を心にきざむ」

い - かえ・す【射返す】
［動サ五（四）］
敵が射かけてきたのに応じて、こちらからも射る。応射する。「敵陣に向かって―・す」

い - か・ける【射掛ける】
［動カ下一］いか・く［カ下二］
敵に向かって矢を放つ。「火矢を―・ける」

いかだ - ながし【筏流し】
木材を筏に組み、川に流して運搬すること。また、それを操る人。

い - かつ【威喝】
［名］（スル）
どなったりして、人を脅すこと。「いたずらっ子を―する」

怒(いか)り心頭(しんとう)に発・する
激しく怒る。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いかり‐づめ【怒り爪】
獣が怒ったり、敵や獲物に襲いかかろうとしたりするときにむき出す爪。

いかり‐の‐ひ【怒りの日】
《(ラテン)Dies Irae》
① 最後の審判の日のこと。
② カトリック教会で、レクイエム（死者のためのミサ）に用いられた続唱。最後の審判の日に向けた祈りで、「怒りの日」の句で始まる。

い‐かん【異観】
珍しい眺め。かわったみもの。

い‐かん【移管】
［名］(スル)
管理・管轄を他に移すこと。「国から県へ―する」

い‐かん【移監】
［名］(スル)
受刑者や被告人など、刑事施設に収容されている者を他の施設に移すこと。刑事訴訟規則の改正で「移送」に改められた。「収容者を―する」

い‐かん【偉観】
りっぱな眺め。すばらしい光景。壮観。「超高層ビル群の―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

如何(いかん)ともし難(がた)・い
どうにもならない。どうすることもできない。「いくら頼まれても、これ以上は―・い」

遺憾(いかん)ながら
残念ではあるが。「―欠席させていただきます」

いかん - なく【遺憾無く】
［副］
心残りがないほど十分に。申し分なく。「―実力を発揮する」

遺憾(いかん)にたえ◦ない
残念でならない。全く残念である。「責任を果たせなかったことは―◦ない」

鋳型(いがた)には・める
特徴のないものに作りあげる。画一的で個性のない人間に育てる。「―・めた教育」

い - がん【依願】
本人からの願い出によること。「―退職」

生(い)き馬(うま)の目を抜・く
生き馬の目を抜き取るほど、すばやく物事をする。油断のならないさま。生き馬の目を抉(くじ)る。生き牛の目を抉る。「―・くせちがらい世の中」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いきおい - こ・む【勢い込む】
［動マ五（四）］
奮いたって何かをする。勇みたつ。「―・んで話す」

勢(いきお)い猛(もう)
勢力の強いさま。裕福ではぶりのよいさま。「―に寄せて来る大波小波」

いき - か【閾下】
刺激が小さくて生体に反応の起こらない状態。意識していない状態。

いきかちかく【閾下知覚】
閾下の刺激によって生じる知覚。この心理的効果を広告などに利用することがある。
→サブリミナル - アド

いきかわり - しにかわり【生き替（わ）り死に替（わ）り】
［連語］
何度も生まれかわって。死んでは、また生き返って。「私は―して七生まで貫一さんを怨みますよ」

意気(いき)が揚(あ)が・る
意気込みが盛んになる。「同点に追いついてチームの―・った」

息(いき)が掛か・る
有力者の後援や支配を受ける。「会長の―・った人物」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

息(いき)が通・う
① まだ死なないで息が続いている。
② 生き生きしている。「―・った作品」

息(いき)が長・い
① 長期にわたって続いている。「―・い仕事」
② 文章で、句点から次の句点までの間が長い。文が長くとぎれずに続く。

いき‐がね【生き金】
使っただけの価値が生じる金銭。⇔死に金。

息(いき)が弾(はず)・む
運動をしたり気持ちをたかぶらせたりして、呼吸が荒くなる。「うれしくて―・む」

生(い)き肝(ぎも)を抜・く
ひどく驚かす。ど肝を抜く。生き肝を取る。「相手の剣幕に―・かれる」

いき‐ぐされ【生（き）腐れ】
魚が新鮮そうに見えても、すでに腐っていること。サバによくいわれ、肉のヒスタミンの生成により、食した人にアレルギー症状を起こさせることがある。いきぐさり。

いき‐けんこう【意気軒昂】
［ト・タル］［形動タリ］
意気込みが盛んで、元気いっぱいなさま。「―たる女性チーム」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いき - しょうてん【意気衝天】
意気込みが天を衝(つ)くほど、激しく盛んなこと。「―の勢い」

いきせき - き・る【息急き切る】
［動ラ五（四)］
激しい息づかいをする。あえぎながら急いで行動するさまにいう。いきせく。「―・って駆けつける」

いき - そそう【意気阻喪／意気沮喪】
［名］(スル)
意気込みがくじけ弱ること。意気消沈(いきしょうちん)。

生(い)きた心地もし◦ない
恐ろしさで生きている感じがしない。「地震が収まるまでは―◦なかった」

生(い)きた空(そら)がな・い
恐ろしさや苦しみのあまり生きている気持ちがしない。

いき - ち【閾値】
① ある反応を起こさせる、最低の刺激量。しきいち。
② 生体の感覚に興奮を生じさせるために必要な刺激の最小値。しきいち。

意気(いき)に燃・える
あることをしようとする意気込みが盛んである。「政治改革の―・える」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いき - ま・く【息巻く】
［動カ五（四）］
① 激しく言いまくる。気炎をあげる。「向かう所敵なしと―・く」
② 息づかいを荒くして怒る。ひどく憤慨する。「絶対に許さないと―・いている」

いき - み【生き身】
① 生きているからだ。なまみ。⇔死に身。
② とりたての魚肉。「新鮮な鰹(かつお)の―」

生(い)き身(み)は死に身
この世に生きているものは、必ず死ぬものであるということ。生者(しょうじゃ)必滅。

い - きょう【異香】
すぐれたよいかおり。いこう。

い - きょう【異郷】
自分の郷里・母国でないよその土地。他郷。異国。異境。「―で暮らす」

い - きょう【遺教】
昔の人が残した教え。また、故人が言い残した教え。

い - きょう【遺響】
あとに残る響き。余韻。転じて、後世に残る風習や教え。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いきょう - の - おに【異郷の鬼】
故郷を遠く離れた地や外国で死んだ人。「―となる」

故郷を遠く離れた地や外国で死んだ人。
説明などを詳しくして、細かいところまで行き届かせる。「―・した解説」

いきり - た・つ【熱り立つ】
［動タ五（四）］
激しく怒って興奮する。「審判の判定に観衆が―・つ」

いきれ【熱れ／熅れ】
蒸されるような熱気。ほてり。いきり。「草―」「人―」

息(いき)を入・れる
仕事などの中途で休憩する。ひと休みする。「ここらでちょっと―・れよう」

息(いき)を凝(こ)ら・す
呼吸を抑えてじっとしている。息を詰める。「―・して見つめる」

息(いき)を吐(つ)・く
ためていた息をはく。
① 大きく呼吸をする。
② 苦しみや緊張から解放される。ほっとする。「多忙で―・く暇もない」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

息(いき)を弾(はず)ま・せる
運動したり興奮したりして、激しい息づかいをする。「―・せて報告する」

い‐ぎたな・い【寝穢い】
［形］いぎたな・し［ク］《「い」は寝ることの意》
眠りをむさぼっている。眠り込んでいてなかなか起きない。「―・く眠りほうける」

いぎ‐の‐もの【威儀の物】
即位の礼などのとき、参列する武官などが、儀式の威容を整えるために捧げ持つもの。弓・箭(や)・胡籙(やなぐい)・太刀・桙(ほこ)・盾など。

い‐ぎょう【医業】
医療にたずさわる職業。また、医者の業務。

い‐ぎょう【遺業】
故人が成し遂げた事業。また、故人が未完成のまま残していった事業。「先代の―を継ぐ」

威儀(いぎ)を正(ただ)・す
身なりを整え、おもおもしい態度をとる。威儀を繕う。「―・して授賞式に列する」

い‐く【偉躯】
大きなからだ。「貫禄十分な―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いく - えい【育英】
《「孟子」尽心上から》
すぐれた才能を持った青少年を教育すること。転じて、教育。「―事業」

戦(いくさ)を見て矢を矧(は)ぐ
戦いが始まってから矢を作る。事が起こってからあわてて準備にとりかかることの愚かさをいうたとえ。盗人(ぬすびと)を見て縄を綯(な)う。

いく - しゅ【育種】
［名］(スル)
生物のもつ遺伝的形質を利用して改良し、有益な品種を育成すること。

いくしゅ - か【育種家】
家畜や植物の品種改良を職業とする人。ブリーダー。

いく - すう【育雛】
［名］(スル)
卵からかえったひな鳥を育てること。特に、鶏についていう。

いく - せいそう【幾星霜】
苦労を経た上での、長い年月。いくとしつき。「敗戦から―を経て今日に至る」

いく - ひさしく【幾久しく】
［副］
いつまでも変わらないさま。あいさつや手紙文などに用いる。末長く。「―幸多かれと祈ります」「―御交誼を賜りますよう」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - くび【猪首】
首が太くて短いこと。また、そういう首。

いく - びょう【育苗】
［名］（スル）
苗を育てること。「水田の稲を―する」

いく - りん【育林】
森林を育てること。

い - くん【偉勲】
りっぱな手柄。大きな手柄。「―を立てる」

い - くん【遺訓】
故人の残した教え。父祖から子孫への教訓。「父の―を守る」

い - ぐい【居食い】
［名］（スル）
働かないで手持ちの財産などで生活すること。徒食。座食。「―して無為の日を過ごす」

い - ぐるし・い【居苦しい】
［形］ゐぐる・し［シク］
居心地が悪い。そこにいても楽しくない。「―・い喫茶店」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - けい【畏敬】
［名］（スル）
崇高なものや偉大な人を、おそれうやまうこと。「―の念を抱く」

いけ - くち【行け口】
酒などを相当に飲める人。

いけ - こ・む【生け込む】
［動マ五（四）］
花や枝などを花器にさして形を整える。「正月用の花を―・む」

いけ - こ・む【埋け込む】
［動マ五（四）］
地面や灰などに穴を掘ってうめる。「種火を―・む」

いけ - ずうずうし・い【いけ図図しい】
［形］《「いけ」は接頭語》
いやになるほどあつかましい。「―・いったら、ありゃあしないよ」

いけ - ぼし【池干し】
ため池などの水をくみ出し、底面を乾燥させること。

いけ - る - かぎり【生ける限り】
［連語］
生きている間。一生。生涯。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - けん【威権】
相手にこちらの意思を押しつけて従わせる力。威力と権力。

い - けん【異見】
［名］（スル）
他の人とは違った考え。異議。異論。「―を唱える」「―を差し挟む」

い - けん【違憲】
成文憲法の規定に違反すること。憲法違反。「―訴訟」⇔合憲。

い - けん【遺賢】
すぐれた才能を持ちながら、政府に用いられないで民間にいる人。「野（や）に―なし」

いけん - こうこく【意見広告】
団体や個人が自分の主義主張を訴えるための広告。

いけん - しょ【意見書】
ある問題についての考えを述べた文書。「法律制定を求める―」

意見（いけん）に付（つ）・く
忠告に従う。

い - げた【井桁】
① 木で井の字の形に組んだ井戸のふち。
② 井の字の形。また、井の字の形に組んだもの。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - こう【偉功】
すぐれてりっぱな業績。「―をたたえる」

い - こう【偉効】
すぐれた効果。「―を奏する」

い - こう【遺功】
死後に残る功績。「先帝の―」

い - こう【遺構】
残存する古い建築物。また、昔の都市や建造物の形や構造を知るための手がかりとなる残存物。考古学では、住居跡・倉庫跡・水田跡など、その配置や様式を知る手がかりとなる基壇や柱穴など。

い - こう【遺稿】
死後に残された未発表の原稿。

い - こく【異国】
外国。異邦。とつくに。「―の土となる」

いこく - しゅみ【異国趣味】
① 外国の風物にあこがれ、そこから感じられる趣を好むこと。
② 外国の人物・事象に取材して、芸術的効果を上げる手法。エキゾチシズム。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - こみ【射込み】
野菜などの中身をくりぬき、中にほかの材料をつめこむこと。また、その料理。

い - こ - み - き【巳己巳己】
（巳・己・巳と、それぞれの字形が似ているところから）
互いに似ているものをたとえていう語。

い - こ・む【射込む】
［動マ五（四）］
① 矢をねらうものの中にはなつ。「敵陣に―・む」
② 光・視線などを鋭く放つ。

い - こ・む【鋳込む】
［動マ五（四）］
金属を溶かして鋳型の中に流し込む。「溶かした鉄を―・む」

い - こん【遺恨】
忘れがたい深いうらみ。宿怨（しゅくえん）。「―を晴らす」「―試合」

い - こん【縊痕】
首をくくった人の首にできる縄のあと。

い - さい【委細】
① 細かく詳しいこと。詳しい事情。詳細。「―は面談の上で」
② 細かいことまですべて。万事。「―承知した」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - さい【異才】
人並みでないすぐれた才能。また、その持ち主。「音楽界の―」

い - さい【偉才】
すぐれた才能。また、その持ち主。「―を発揮する」

委細(いさい)構わず
事情がどうあろうとも、それにはかかわらず。遠慮なく。「―実行する」

い - ざいそく【居催促】
《「いさいそく」とも》
座りこんで催促すること。「政策撤廃を―する」

異彩(いさい)を放・つ
① 普通とは違った色彩や光を出す。
② 多くの中できわだって見える。「画壇の中で―・つ新人」

いさお【勲／功】
りっぱに仕事をなしとげたこと。名誉ある功績。いさおし。「―を立てる」

潔(いさぎよ)しとし◦ない
自分が関わる事柄について、みずからの信念に照らして許すことができない。「人に頼ることを―◦ない」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - さく【遺作】
死後に残された未発表の作品。

いさみ - た・つ【勇み立つ】
［動タ五（四）］
勇気を奮い起こし勢いこむ。気負いたつ。奮起する。元気づく。「盛んな声援に選手たちは―・った」

いさみ - はだ【勇み肌】
威勢がよく、おとこ気のある気風。任侠（にんきょう）の気風。「―の若い衆」

い - ざい【異材】
人並みでないすぐれた才能の持ち主。また、常人と違った才能の持ち主。

い - ざい【偉材】
すぐれた才能の持ち主。すぐれた人物。「―を輩出する」

いざ知らず
《「いさ知らず」の「いさ」と感動詞「いざ」との混同によってできたもの》
…についてはよくわからないが。…はともかくとして。「昔は―、現在こんな事を信じる者はいない」

い - ざと・い【寝聡い】
［形］いざと・し［ク］
《「い」は眠ることの意》
目が覚めるのが早い。目が覚めやすい。「祖母は近ごろ―・くなった」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - ざ・る【躄る／膝行る】
［動ラ五（四）］《「い」は座る、「さる」は移動する意》
座ったままで進む。ひざがしらや尻をつけたままで進む。膝行（しっこう）する。「―・って仏前に進む」

い - し【異志】
謀反の心。異心。

い - し【遺旨】
先人が残した考え。

い - し【遺志】
故人が、果たすことができないで残したこころざし。「先生の―を継ぐ」

遺志を継ぐ
故人が果たせなかったこころざしを引き受ける。「父の―・いで政界に進出する」

い - し【遺屍】
置き去りにされた死体。遺棄死体。

い - し【縊死】
［名］（スル）
首をくくって死ぬこと。首つり死。縊首（いしゅ）。「窓格子に帯をかけて―しようとした」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - しか・る【居敷かる】
［動ラ四］
どっかと腰をおろす。あぐらをかいて座り込む。

石(いし)が流れて木の葉が沈む
《「新語」弁惑から》
物事が道理と逆になることのたとえ。

石亀(いしがめ)の地団駄(じだんだ)
《「雁(がん)が飛べば石亀も地団駄」の略》
身の程を考えないで、他をまねようと力んでも限界があることのたとえ。石亀も地団駄。

い - しき【違式】
一定の形式からはずれていること。

い - しき【遺式】
昔から伝わっている慣例・風習。

いし - きり【石切り】
① 山から石材を切り出すこと「石灰質の岩山で―する」。
② 石材に細工をすること。また、その職業やそれをする人。石工(いしく)。石屋。

いし - ぐら【石倉／石蔵】
石を積み重ねてつくった倉。石造りの倉庫。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

石車(いしぐるま)に乗・る
小石を踏み、足をとられてひっくり返る。転じて、うっかり調子に乗って失敗する。

いし - じき【石敷（き)】
平たい石を敷き詰めて舗装した所。石畳。

石(いし)に齧(かじ)りついても
どんな苦労をしてもがまんして。石にかじりついてでも。是が非でも。「―やり遂げたい」

石(いし)に灸(きゅう)
効き目のないことのたとえ。石に針。

石(いし)に枕(まくら)し流(なが)れに漱(くちすす)ぐ
《「蜀志」彭羕伝から》
俗世間から遠ざかって山林に隠れ住み、自由な生活をする。

いし - にわ【石庭】
庭木をほとんど使わないで、岩・石・砂でつくられた庭。せきてい。

いし - の - ひ【石の火】
火打ち石をこすって出す火。また、瞬間的なもの、はかないもののたとえ。

いし - べい【石塀】
石でつくった塀。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いしべ - きんきち【石部金吉】
《石と金の二つの硬いものを並べて人名のようにした語》
非常にきまじめで物堅い人。特に、女色(じょしょく)に迷わされない人。また、融通のきかない人物。

石部金吉(いしべきんきち)金兜(かなかぶと)
石部金吉に金(かね)の兜(かぶと)をかぶせたような人。極端に融通のきかない人のたとえ。

いし - ぼとけ【石仏】
① 石でつくった仏像。せきぶつ。
② 感情を動かさない人。また、非常に口数の少ない人。「木仏(きぶつ)金仏(かなぶつ)―」

医者(いしゃ)の不養生(ふようじょう)
人に養生を勧める医者が、自分は健康に注意しないこと。正しいとわかっていながら自分では実行しないことのたとえ。

い - しゅ【意趣】
恨みを含むこと。また、人を恨む気持ち。遺恨(いこん)。「―を晴らす」

い - しゅう【異宗】
異なった宗教、また宗派。他宗。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - しゅう【蝟集】
［名］（スル）
《「蝟」はハリネズミの意》
ハリネズミの毛のように、一時に１か所に、多くのものが寄り集まること。

い - しゅう【遺習】
現在まで残されている、昔の風俗・習慣。遺風。「創業時の―」

いしゅ - うち【意趣討ち】
恨みを晴らすために、その相手を討ち取ること。意趣斬り。

いしゅ - がえし【意趣返し】
［名］（スル）
恨みを返すこと。しかえし。復讐（ふくしゅう）。「仇敵に―する」

い - しゅく【畏縮】
［名］（スル）
おそれかしこまって小さくなること。「権威の前に―する」

い - しゅく【萎縮】
［名］（スル）
① しぼんでちぢむこと。また、元気がなくなること。「寒くて手足が―する」「聴衆を前にして―してしまう」
② 正常の大きさに達した生体の器官などが、小さく変化して、機能しなくなること。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - しゅつ【移出】
［名］（スル）
物を他所へ送り出すこと。特に、貨物・産物を国内の他の地域へ送り出すこと。「物資を―する」⇔移入。

い - しゅつにゅう【移出入】
移出と移入。

いしゅ - ばらし【意趣晴（ら）し】
しかえしをして恨みを晴らすこと。

い - しょう【異称】
別の呼び名。別称。異名（いみょう）。

い - しょう【意匠】
① 絵画・詩文や催し物などで、工夫をめぐらすこと。趣向。「舞台照明に―を凝らす」
② 美術・工芸・などで、その形・色・模様・配置などについて加える装飾上の工夫。。

いしょう - あわせ【衣装合（わ）せ】
出演者がいくつかの衣装を実際に着てみて役柄に合ったものを選ぶこと。また、結婚式に着る衣装を試着してみること。

いしょう - くらべ【衣装比べ】
主に女性が、互いに衣装の美しさを競いあうこと。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いしょう - ごのみ【衣装好み】
衣服に関心があり、趣味のやかましいこと。また、そのような人。

いしょう - つき【衣装付き】
衣装を着た格好。衣装の着こなし。

いしょう - づくし【衣装尽（く）し】
着物にぜいたくの限りを尽くすこと。

いしょう - もち【衣装持（ち）】
衣服をたくさん持っていること。また、その人。

い - しょく【委嘱】
［名］（スル）
一定期間、特定の仕事を他の人に任せること。委託。「監査役を―する」

い - しょく【異色】
［名・形動］
《同じでない色、また、普通とは違う色の意から》
他と異なって特色のあること。また、そのさま。「―の顔ぶれ」「―な作風」

い - しょく【遺嘱】
［名］（スル）
生きているうちに、死後のことを依頼すること。生前の頼み。遺託（いたく）。「自分が亡くなった時に遺書を開くよう―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いしょく - ごて【移植鏝】
野菜や草花を移植するのに使う小型のシャベル。

衣食(いしょく)足りて礼節を知る
《「管子」牧民の「倉廩(そうりん)実(み)ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち栄辱(えいじょく)を知る」から》
人は、物質的に不自由がなくなって、初めて礼儀に心を向ける余裕ができてくる。衣食足りて栄辱を知る。

いしょく - どうげん【医食同源】
病気を治療するのも日常の食事をするのも、ともに生命を養い健康を保つために欠くことができないもので、源は同じだという考え。

石(いし)を抱(いだ)きて淵(ふち)に入(い)る
《「韓詩外伝」三から》
むやみに危険をおかすこと、意味なく自分の命を捨てることのたとえ。石を抱きて淵に臨(のぞ)む。

遺志(いし)を継(つ)・ぐ
故人が果たせなかったこころざしを引き受ける。「父の―・いで政界に進出する」

い - しん【威信】
威厳と信望。「国家の―にかかわる」「―が失墜する」

い - しん【異心】
裏切りをたくらむ心。ふたごころ。反逆心。「―をいだく」「―を挟む」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - じ【異事】
普通ではない出来事。変事。

いじ - いじ
［副］（スル）
態度がはっきりしないさま。ぐずぐず。「―（と）して決断が遅い」

いじ - ずく【意地尽く】
意地を張り通すこと。いじばり。「―でやりとげる」

意地(いじ)でも
行きがかり上、無理にでも。意地になって。「―完成させよう」

意地(いじ)に掛か・る
無理にでも自分の意地を押し通そうとする。意地になる。

い - じょう【囲繞】
［名］（スル）
まわりを取り囲むこと。いにょう。「町を―する掘割」

い - じょう【委譲】
［名］（スル）
権利・権限などを他の人・機関に譲って任せること。「執行権を―する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - じょう【異状】
普通とは違う状態。「これといって―は認められない」「―を呈する」

い - じょう【移乗】
［名］（スル）
別の船や車などに、乗り移ること。「小舟に―して岸に向かう」

い - じょう【移譲】
［名］（スル）
権限や権利、財産などを他に譲り移すこと。「所有権を―する」

い - じょうふ【偉丈夫】
《「いじょうぶ」とも》
からだが大きくてたくましい男。また、人格のすぐれている男。大丈夫(だいじょうふ)。

いじらし・い〔いぢらしい〕
［形］いぢら・し［シク］
幼い子供や弱い者などの振る舞いが、何ともあわれで同情したくなる感じである。けなげでかわいそうなさま。また、可憐(かれん)なさま。「涙を見せまいとする姿が―・い」

いじり - やき【弄り焼き】
餅(もち)などを、気ぜわしく何度も裏表ひっくり返しながら焼くこと。「かき餅の―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - じん【夷人】
未開人。野蛮人。また、外国人を軽視していうこともある。

交喙(いすか)の嘴(はし)
《イスカのくちばしの上下食い違った形から》
物事が食い違って思うようにならないこと。「―の食い違い」

い - すくま・る【居竦まる】
［動ラ五（四)］
《「いずくまる」とも》
恐ろしさや寒さのあまり、身がすくんで動けなくなる。いすくむ。「にらまれて―・る」

い - すく・める【射×竦める】
［動マ下一］［文］いすく・む［マ下二］
① 相手を見据えてこわがらせ、身が縮むようにする。「鋭い眼光で射竦められる」
② 矢を射て敵を萎縮させ、身動きできないようにする。「ただ遠矢に―・めければ」〈太平記・五〉

何処(いずこ)ともなく
どこへというあてもなく。どことも知れず。「―立ち去る」

居住(いず)まいを正(ただ)・す
きちんとした姿勢に座りなおす。座り方を改める。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

何(いず)れ劣(おと)らぬ
どれもこれも優れていて、見劣りするものがない。「―強豪ぞろい」

いせい - しゃ【為政者】
政治を行う者。為政家。

いそ - いそ
［副］（スル）
心が浮き立ち、喜び勇むさま。うれしいことなどがあって、動作がはずむさま。「―（と）出かける」「朝から―（と）している」

いそいそ - し・い の意味
［形］［文］いそいそ・し［シク］心を弾ませてするようすである。
「―・く出かけていく」

急(いそ)がず休まず
あせらずに地道に努力するさまをいう語。
「―レンガを積み上げる」

いそ - くさ・い【磯臭い】
［形］［文］いそくさ・し［ク］
魚や海藻のにおいがまじって、海辺独特のにおいがするさま。「バスの窓から―・い風が流れ込む」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いそ - もの【磯物】
① 近海でとれる魚類。
② 磯辺でとれる海藻や貝・小魚など。

痛(いた)い所を衝(つ)・く
弱点を指摘して攻めたてる。

いたい - どうしん【異体同心】
身体は別々であるが、心は同一であること。夫婦仲のよいことなどにいう。

いた - がゆ・い【痛×痒い】
［形］［文］いたがゆ・し［ク］
痛みとともにかゆみを感じる。「擦りむいたところが―・い」

痛(いた)くもない腹を探られる
《腹痛でもないのに痛い所はどこかと探りまわされる意から》
何のやましいこともしていないのに、疑いをかけられる。

いたけ - だか【居丈高】
［形動］［文］［ナリ］
（「威丈高」とも書く）人に対して威圧的な態度をとるさま。「―に命令する」

痛(いた)し痒(かゆ)し
《かけば痛いし、かかないとかゆい意から》
二つの方法のどちらをとってもぐあいが悪く、どうしたらよいか迷う。また、ぐあいのよい面もあれば悪い面もあって、困る。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いた - じき【板敷（き）】
床を板張りにすること。また、板張りにした所。板の間。「―の部屋」

鼬(いたち)の最後っ屁(ぺ)
《イタチが窮したときに悪臭を放って敵をひるませるところから》
困ったときに非常手段に訴えること。「―の閃光手りゅう弾」

鼬(いたち)の目陰(まかげ)
《イタチが人を見るときに前足を目の上にかざすという俗信から》
疑わしげに人を見るようす。「―に視線を送る」

いたみ - い・る【痛み入る／傷み入る】
［動ラ五（四）］
相手の手厚い配慮・好意などに対して、深く感じいる。恐縮する。やや皮肉をこめて言うときにも用いる。「御親切―・ります」

いたみ - もの【痛み物】
① 腐った物。壊れた物。「―を選(え)りのける」
② 壊れやすい物。腐りやすい食品。「夏場の見舞品に―は避けたい」

至(いた)れり尽(つ)くせり
《「荘子」斉物論から》配慮が行き届いて、申し分がない。「―の接待」

いたん - し【異端視】
［名］（スル）
異端とみなすこと。異端として扱うこと。「―される流派」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いたん - じ【異端児】
ある分野で、正統から外れ、特異な存在とみられている人。「球界の―」

いだてん - ばしり【韋駄天走り】
非常に速く走ること。「―に逃げ出す」

いち - あん【一案】
多くの中の、一つの考え。他とは別の、もう一つの考え。「それも考慮したい―だ」

いちい - せんしん【一意専心】
（副詞的に用いて）
わき目もふらず心を一つのことだけに注ぐこと。「―環境問題に取り組む」

一(いち)から十(じゅう)まで
何から何まで。始めから終わりまで。すべて。「―人に頼る」

いちぎ - てき【一義的】
［形動］
① それ以外に意味や解釈が考えられないさま。「―な結論を導く」
② いちばん大切な意味をもっているさま。根本的。第一義的。「教育の―な目的」

一議(いちぎ)に及ばず
あれこれ議論するまでもない。問題にするまでもない。「―承認される」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - ちく【移築】
［名］（スル）
建築物を解体して他の場所へ移し建て直すこと。「古い民家を―する」

いち - けんしき【一見識】
しっかりした考え。人並みすぐれたものの見方。いっけんしき。「古代美術に―をもつ」

いち - げん【一見】
初めて会うこと。特に、旅館や料理屋などの客がなじみでなく、初めてであること。また、その人。「―さんはお断りしています」

いちげん - いっこう【一言一行】
一つの言葉と一つのおこない。「人の上に立つ者は―も慎むべきだ」

いちげん - か【一元化】
［名］（スル）
いくつかに分かれている問題や機構・組織などを統一すること。「窓口を―する」

いちげん - てき【一元的】
［形動］さまざまな事物が根源を一つにしているとみえるさま。「―な考え方」⇔多元的。

いちごん - はんく【一言半句】
ほんの少しの言葉。片言隻句(へんげんせっく)。「―も不平を漏らさない」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

一言(いちごん)もな・い
ひとことも弁解できない。弁明する余地がない。「何と非難されても―・い」

一事(いちじ)が万事
わずか一つの物事から、他のすべてのことを推し量ることができる。一つの小さな事柄の調子が他のすべての場合に現れる。「彼のやることは―間が抜けている」

いちじ - のがれ【一時逃れ】
その場だけつくろって、困難や責任を逃れようとすること。いっときのがれ。「一時逃れの言い訳」

いち - じょう【一条】
① ひと筋。1 本。「一条の光」「一条の活路を見いだす」
② 箇条書きのひとくだり。文章の中の一節。一条項。「一条の注意書き」

いち - せいめん【一生面】
新しく開いた方面。新しい工夫。新生面。新機軸。いっせいめん。「生命科学の分野に―を開く」

一(いち)と言って二とない
とび抜けて優れていてその後に続くものがない。「―名人」

一堂(いちどう)に会(かい)・する
同じ場所に集まる。「加盟国代表が―・する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いちにち - のばし【一日延ばし】
果たさなければならないのに、何かと理由をつけて来る日も来る日も期限を延ばすこと。「返事を一日延ばしにする」

一(いち)にも二にも
他のことより、まずそのことに専念するさま。なにはさておき。「―練習だ」

いちぼく - いっそう【一木一草】
1 本の木、1 本の草。また、きわめてわずかなもののたとえ。一草一木。「―をも慈しむ」「―とて生えない荒れ地」

いちまい - いわ【一枚岩】
1 枚の板のように平らで大きな岩。また、そのように、組織などがしっかりとまとまっていることのたとえ。「一枚岩の結束を誇る」

一枚(いちまい)噛(か)・む
一つの役をになって、ある事柄に参加する。参画する。一枚加わる。「その計画には当初から―・んでいる」

いちみ - ととう【一味徒党
同じ目的をもって結ばれた仲間。多く、悪事に加わることをいう。

いちみ - どうしん【一味同心】
心を一つにして力を合わせること。また、その人々。

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

一脈(いちみゃく)相(あい)通・ずる
どこか共通するところがある。「名を成す人には―・ずるところがある」

いち - めんしき【一面識】
一度だけ会って少しは知っていること。また、その間柄。「一面識もない人」

いちめん - てき【一面的】
［形動］
意見や観察などが、ある一つの面にかたよっているさま。「―な見方」「―な批評」

一(いち)も二もなく
提示されたことに対して、とやかく言うまでもなく。即座に。「―引き受ける」

一文(いちもん)にもなら・ない
苦労をしても、なんの利益も得られない。「この作業を続けても、―・ない」

いちや - こじき【一夜乞食】
金持ちが急に貧乏になること。また、その人。⇔一夜大尽(いちやだいじん)。

いちや - づけ【一夜漬（け)】
① 一晩だけ漬けた漬物。早漬け。「蕪(かぶ)の―」
② 間に合わせに一晩で急いで準備した仕事や勉強。「―の試験勉強」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - ちゅう【移駐】
［名］（スル）
軍隊などが、他の場所に移動して駐屯すること。「他基地に―する」

一翼（いちよく）を担（にな）・う
全体の中で、一つの役割を引き受ける。「大プロジェクトの―・う」

いちろ - まいしん【一路邁進】
［名］（スル）
目的を達成するために、ひたすら進むこと。「完成に向かって一路邁進する」

いっきょ - いちどう【一挙一動】
一つ一つの挙動。ちょっとした振る舞い。一挙手一投足。「―を見守る」

いっ - きょう【一驚】
［名］（スル）
驚くこと。びっくりすること。「あまりのすばらしさに一驚する」「―を喫する」

いっきょく - しゅぎ【一極主義】
１か所にすべての力を集中し、他を支配しようとする考え方。「東京一極主義で地方が衰退する」

いっ - こう【一考】
［名］（スル）
一度考えてみること。「一考を要する」「一考する余地がある」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いっ - さく【一策】
一つの計画、はかりごと。「一策を講じる」「窮余の一策」

一笑(いっしょう)に付・す
笑って問題にしないでいる。ばかにして相手にしない。「提案は―・された」

一笑(いっしょう)を買・う
回りの人の笑いものになる。「幼稚な意見が―・う」

いっすん - きざみ【一寸刻み】
いっぺんに殺さず、少しずつ切って苦しめること。また、物事が少しずつ進行すること。「参詣人の列が一寸刻みに進む」

一席(いっせき)ぶ・つ
大勢の聞き手に向かって演説をしたり威勢のいい話をしたりする。「環境問題について―・つ」

一席(いっせき)設・ける
ちょっとした宴会や集まりを開く。

一石(いっせき)を投・じる
《水に石を投げると波紋が生じるところから》反響を呼ぶような問題を投げかける。「文壇に―・じる」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

一線(いっせん)を画(かく)・する
境界線を引いてくぎりをつける。はっきり区別する。「保守派とは―・する」

いっそく - とび【一足飛び】
① 両足をそろえて飛ぶこと。
② 目的の地点まで一気に移動すること。「三階まで一足飛びに駆け上がる」
③ 順序を踏まないで、飛び越えて進むこと。一気に飛び越えること。「一足飛びの昇進」

一旦(いったん)緩急(かんきゅう)あれば
《「史記」袁盎伝から》
ひとたび大事が起これば。「―ただちに駆けつける」

一端(いったん)を担(にな)・う
ある物事について、部分的に関与している。責任や役目の一部を負っている

いっち - はんかい【一知半解】
物事の理解のしかたが中途半端なこと。なまかじりの知識。「一知半解の徒」

いっちょう - いっせき【一朝一夕】
《一日か一晩か、の意から》
わずかな期間。短い時日。「これほどの大事業は一朝一夕には成就しない」

いっちょう - いったん【一長一短】
長所がある一方、短所もあること。「どれも実用化の点で一長一短がある」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いっちょう - ら【一張羅／一丁羅】
その人が持っている衣服のなかで、最もよいもの。「一張羅の晴れ着を着こむ」

いって - はんばい【一手販売】
［名］（スル）
ある商品を自分のところだけで一手に引き受けて売ること。「地酒を一手販売する」

いっ - てんき【一転機】
一つの重大な変わり目。いちてんき。「大病が人生の一転機となった」

一頭（いっとう）地（ち）を抜・く
《「宋史」蘇軾伝から》
他の人よりひときわすぐれている。一頭地を出（い）だす。「クラスで常に―・いていた」

いっぱい - きげん【一杯機嫌
［名・形動］
酒に酔って、気持ちよさそうにしていること。また、そのさま。「一杯機嫌で鼻歌が出る」

一杯（いっぱい）食・う
うまくだまされる。たくらみにひっかかる。「つい油断してまんまと―・った」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いっぴん - いっしょう【一顰一笑】
《「韓非子」内儲説から》
顔をしかめたり、笑ったりすること。ちょっとした表情の変化。また、人の顔色。「一顰一笑に左右される」

一服(いっぷく)の清涼剤(せいりょうざい)
清涼剤のように、気持ちをさわやかにしてくれる事柄。「子供の笑顔が―になった」

いっ - ぺき【一碧】
空や水が、一面に青々としていること。「水天一碧」

いっぺん - とう【一辺倒】
特定の対象だけに心を傾けて、他は顧みないこと。「アメリカ一辺倒の政策」「夏はもっぱらビール一辺倒だ」

いっぽん - ぎ【一本気】
［名・形動］
物事をいちずに思いこむ性質であること。また、そのさま。「一本気な若者」

いつ - わ【逸話】
その人についての、あまり知られていない興味深い話。エピソード。「―の多い人物」

いと - すじ【糸筋】
糸の筋。糸。また、糸のように細く長いもの。「―ほどの光」「涙の―」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

意(い)と・する
（多く、あとに打消しの語を伴って用いる）気にとめる。心配する。「失敗も―・せずやり抜く」

異(い)とするに足り・ない
ことさら不思議に思ったり、驚いたりすることではない。「実力からすれば、決勝進出は何も―・ないことだ」

偉(い)とするに足・る
十分に賞賛する価値がある。まさに偉大であると言える。「―・る功績」

いとま - ごい【暇乞い】
［名］（スル）
① 別れを告げること。別れの言葉。「故郷に帰りますので―に参りました」
② ひまをくれるように願い出ること。「主人に―する」

糸目(いとめ)を付(つ)け・ない
《糸目をつけないと凧(たこ)を制御できないところから》
物事をするのに何の制限も加えない。多く、惜しげもなく金品を使うことにいう。「蒐集に際しては金に―・ない」

いとわし・い【厭わしい】
［形］［文］いとは・し［シク］
《動詞「いと（厭）う」の形容詞化》
不愉快で、いやである。わずらわしい。「雨の日ばかりで―・い」「―・い人間関係」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

糸(いと)を解(ほぐ)すよう
からんだ糸をほぐしてなおすようにするさま。さまざまに入り組んで混乱している問題の決着に向かって少しずつ丁寧に解いて行くさまの形容に用いる。「難事件を―に推理する」

い - なお・る【居直る】
［動ラ五（四)］
① 座り直して姿勢を正す。居ずまいを正す。「―・礼を言う」
② 不利の立場にある者が、急に脅すような強い態度に出る。「わびるどころか、―・って相手を非難する」

いなか - じ・みる【田 - 舎染みる】
［動マ上一］
言動・服装などが田舎くさくなる。「―・た着物」

いなせ - はだ【鯔背肌】
威勢がよく、さっぱりしていて粋(いき)な気風。勇み肌。

意(い)に沿(そ)・う
希望や要求に応じる。「顧客の―・うように設計をやりなおす」

意(い)に染(そ)ま・ない の意味
気に入らない。気がすすまない。「―・ない縁談」

意(い)に満た・ない
満足できない。「―・ない出来」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - ぬき【居抜き】
店舗・工場などを、設備・家具・調度などをつけたまま売り渡したり貸したりすること。居成り。「小料理屋を―で買う」

い - ねむ・る【居眠る】
［動ラ五（四）］
いねむりをする。「壁を背にして―・る」

命(いのち)あっての物種(ものだね)
何事も命あってできることで、死んでは何にもならない。

いのち - の - せんたく【命の洗濯】
日ごろの束縛や苦労から解放されて、のんびり気ままに楽しむこと。「旅に出て―をする」

命(いのち)を削・る
寿命を縮めるほど苦労する。命を縮める。「―・るような長年の努力が実る」

命(いのち)を縮・める
寿命を短くする。死を早める。「事業の失敗が―・めた」

命(いのち)を繋(つな)・ぐ
ほそぼそと生きつづける。命を保つ。生きのびる。「わずかな食料で―・ぐ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

命(いのち)を棒に振・る
むだに命を捨てる。無益な死に方をする。犬死にする。

位牌(いはい)を汚(けが)・す
祖先の名誉を傷つける。

衣鉢(いはつ)を継(つ)・ぐ
宗教・学問・芸術などの各流派で、弟子が師から奥義を授けられる。また、先人の業績を受け継ぐ

荊(いばら)を負(お)・う
《自分をむちうってくれるようにイバラの杖(つえ)を負う意から》
深く謝罪することのたとえ。「犯した罪のために―・って生きていく」

い - ひつ【遺筆】
故人が生前に書いておいた書画や文章など。

い - ふ【畏怖】
［名］(スル)
おそれおののくこと。「―の念を抱く」「神を―する」

今(いま)が今
ちょうど今。たった今。また、今すぐ。「―帰ったばかりだ」「―どうなるということもあるまい」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いま - でき【今出来】
近ごろ作られたもの。当世の作品。「―のものは深みがない」

今(いま)という今
たった今。今こそ。「―彼という人間がわかった」

今(いま)は是迄(これまで)
死や敗北などがもう避けられないさま。もはやこれで終わりだ。「この勝負、―」

今(いま)や遅しと
早くそうなればいいと待ち望むようす。「吉報を―待ちうける」

いま - わ【今際】
《「今は限り」の意から》
もうこれ限りという時。死にぎわ。臨終。最期。「―の言葉」

いまわ - の - きわ【今際の際】
臨終の時。死にぎわ。「―に言い残す」

今(いま)を盛(さか)り
ちょうど今がまっさかりの時だとばかりに。「桜が―と咲きにおう」

今(いま)を時め・く
現在、盛んに世間でもてはやされている。「―・く流行作家」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いみ - もの【忌（み）物】
忌み慎んで用いないもの。また、避けて用いないもの。

芋(いも)を洗うよう
《里芋を桶(おけ)などに入れて棒でかきまぜて洗うようすから》
狭い所で多数の人が込み合うようすのたとえ。芋の子を洗うよう。

い - もん【慰問】
［名］(スル)
不幸な境遇の人や、災害・病気で苦しんでいる人などを見舞うこと。「老人ホームを―する」「―品」

否応(いやおう)無し
承知も不承知もないようす。有無を言わせないようす。「―に連れ出す」

い - やく【意訳】
［名］(スル)
原文の一語一語にとらわれず、全体の意味やニュアンスをくみとって翻訳すること。「こなれた日本語に―する」

否(いや)でも応でも
承知でも不承知でも。どうしても。なにがなんでも。否が応でも。「―引き受けてもらう」「―今日いっぱいで締め切りだ」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - よう【威容】
人や建物のりっぱで威厳のあるようす。威勢のあるりっぱな姿。「―を誇る大聖堂」

い - よう【偉容】
仰ぎ見るほどのすぐれてりっぱな姿。堂々たる姿。「富士の―を仰ぐ」

甍(いらか)を争・う
《棟瓦の高さを競う意から》
家がびっしり建ち並んでいるさまをいう。「商家が―・う」

煎(い)り豆(まめ)に花が咲く
衰えていたものが、再び勢いを盛り返すことのたとえ。また、あるはずのないことが実現することのたとえ。煎り豆が生える。

い - りゅう【慰留】
［名］(スル)
退こうとする人をなだめて、思いとどまらせること。「辞意を表明した会長を―する」

い - りょく【偉力】
すばらしい効果をあげるような力。すぐれた力。「この昂奮剤は、恐ろしい―を現した」

い - ろう【慰労】
［名］(スル)
苦労をねぎらうこと。「試合のあとで選手たちを―する」「―会」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

い - ろう【遺漏】
大切な事が抜け落ちていること。手抜かり。手落ち。「―のないように記入する」

いろめき - た・つ【色めき立つ】
［動タ五（四）］
緊張や興奮で落ち着かなくなる。動揺しはじめる。「緊急動議に議場は―・った」

いろ - め・く【色めく】
［動カ五（四）］
① その時節が来て色が美しくなる。華やかになる。「春になって公園の木々が色―・く」
② 色っぽく見える。「ほんのりとほおを染めて―・いた風情」
③ 緊張や興奮のために落ち着かない状態になる。活気づく。騒然となる。動揺する。「犯人逮捕の知らせに報道陣が―・いた」

色(いろ)を失・う
心配や恐れなどで顔が真っ青になる。意外な事態に対処しきれないようす。「悲報に接し愕然(がくぜん)として―・う」

色(いろ)を替え品を替・える
あらゆる手段を用いる。手を替え品を替える。「―・えて説得する」

色(いろ)を正(ただ)・す
あらたまった顔つきをする。ようすをきちんと正す。「―・して陳謝する」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

色(いろ)を付(つ)・ける
物事の扱いに情を加える。値引きしたり、割り増ししたりする。「謝礼に―・ける」

曰(いわ)く言(い)い難(がた)し
《「孟子」公孫丑上から》
簡単には説明できない。何とも言いようがない。

いわく‐いんねん【曰く因縁】
深いわけ。こみいった事情。「突然の両社の合併には―がありそうだ」

いわず‐かたらず【言わず語らず】
［連語］
何も言わないこと。暗黙。「―のうちに納得する」

言(い)わぬが花
口に出して言わないほうが味わいもあり、差し障りもなくてよい。「これから先は―だ」

意(い)を受・ける
ある人の意向を聞いて、それに従うようにする。「当局の―・けて対処する」

意(い)を・得る
①（多く打消しの語を伴って用いる）物事の意味・理由などがわかる。「―・得ない釈明」
② 思いどおりになる。満足する。「我が―・得たり」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

意(い)を酌(く)・む
人の気持ちや考えを好意的に推察する。「亡父の―・んで遺産を福祉事業に寄付する」

異(い)を挟(さしはさ)・む
他人の意見に対し、疑問や別の意見を出す。「取り決めに―・むつもりはない」

意(い)を注(そそ)・ぐ
気持ちを集中する。力を入れる。「計画の実現に―・ぐ」

意(い)を体(たい)・する
人の考えや気持ちを理解し、それに従う。「新社長の―・して人事を刷新する」

意(い)を尽く・す
考えをすべて言い表す。また、よくわかるように丁寧に言う。「―・した説明」

意(い)を強く・する
心強く思う。自信をもつ。「多数の賛同を得て―・する」

異(い)を唱(とな)・える
反対の意見をいう。異議を唱える。「提案に―・える」

威(い)を振る・う
勢威を示す。「斯界に―・う」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

意(い)を迎・える
人の考えに合わせて気に入られるようにする。迎合する。「大国の―・える外交」

いん - あん【陰暗】
［名・形動］
日当たりが悪く暗いこと。陰気なこと。また、そのさま。「―な土牢」

いん - いつ【淫逸】
［名・形動］
① なまけて遊興にふけること。また、そのさま。「―な日々を送る」
② 男女関係がみだらなこと。また、そのさま。「―な腐れ縁」

いん - いん【殷殷】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
大きな音が鳴り響くさま。「雷鳴が―ととどろく」

いん - いん【陰陰】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
① 薄暗く、もの寂しいさま。「―たる冬景色」
② 陰気なさま。「忍び泣く声が―と響く」

いんいん - めつめつ【陰陰滅滅】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
暗く陰気で、気分がめいるさま。「―たる鐘の音」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いん - うつ【陰鬱】
［形動］［文］［ナリ］
陰気でうっとうしい感じがするさま。また、心が晴れ晴れしないさま。「―な雨空」「―な気分」

いんぎん - ぶれい【慇懃無礼】
［名・形動］
表面は丁寧で礼儀正しいように見えるが、実は尊大で無礼なこと。また、そのさま。「―な態度」

いん - けん【隠見】
［名］（スル）
隠れたり見えたりすること。見え隠れ。「木々の間に―する海」

いん - さん【陰惨】
［名・形動］
暗くむごたらしい感じ。また、そのさま。「―を極める」「―な事件」

いん - し【淫祀】
いかがわしいものを神として祭ること。また、そのやしろ。「―邪教」

いんしゅう - てき【因習的】
［形動］
古いしきたりにとらわれて、新しい考え方を取り入れようとしないさま。「―な社会」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いん - せき【引責】
［名］（スル）
責任を自分の身に引き受けること。責任を取ること。「―辞職」

いん - ぜん【隠然】
［ト・タル］［文］［形動タリ］
表面ではわからないが、陰で強い力を持っているさま。「経済界に―たる勢力をもつ」
⇔顕然。

いん - に【陰に】
［副］
人に気づかれないようにするさま。内密に。こっそりと。かげで。「同僚を―批判する」

陰（いん）に籠（こ）も・る
① 表に現れず心の中にこもる。「―・る性格」
② 陰気なようすである。「―・った声」

陰（いん）に陽（よう）に
あるときはひそかに、あるときは公然と。陰（かげ）になり日向（ひなた）になり。「―力になる」

いん - にん【隠忍】
［名］（スル）
苦しみを心中に隠して堪え忍ぶこと。「―しがたい処遇」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

いん - び【隠微】
［名・形動］
外に現れず、わかりにくいこと。かすかで目立たないこと。また、そのさま。「―な変化」

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.

おわりに

【あいさつ】

語彙辞典を読んでくださり、ありがとうございました。

当レポートを制作したショウヘイと申します。

私は旅する作家という生き方を理想としています。日本や世界の各地を渡り歩くことで、作家としての引き出し（人生経験）を増やし、より良質な物語を世に送り出し続ける……そんな自由な作家生活です。

また、個人で稼ぐ能力を身に付けることで、会社に時間と場所を縛られない人生の実現も目指します。個人で安定した収入を得られれば、出版社の編集者の言いなりにならずに、自分が心から好きな物語を創作できるようにもなるからです。

私が運営しているブログ【ノマドクリエイターの執務室】では、旅する作家になるために役立つ情報を発信しています。もちろん、小説家・ラノベ作家として活躍するために役立つ創作論も公開しています。

時間と場所に縛られない、新しい作家の生き方に興味がありましたら、ぜひブログを覗いてみてください。

↓　↓　↓

■ ブログ：ノマドクリエイターの執務室（https://ノマドクリエイター.net）

Copyright (C) 2019 Shohei @ Nomad-Creator All Rights Reserved.